

総務文教常任委員会活動レポート

開催日：令和6年2月19日(月)

開催場所：1・2号委員会室

教育委員会

1. 教育委員会所管施設・事務調査について

(1) 中標津町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告について

この報告は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、その説明責任を果たすため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会の事務の管理・執行状況について、有識者の知見も活用しながら、平成20年度から毎年度点検・評価を行っているものです。

外部評価は、令和4年度の主要施策について、担当部・課長が実施した一次評価と行政改革推進本部による二次評価の内部評価のうち、教育委員会所管の14施策を、教育委員会外部評価委員5名により協議を行ないました。

全体に関わる意見としては「扶助・共助の考え方をもち、協働の教育行政に向かって、誰のための教育行政なのかという観点を忘れず、事務事業を進めていただきたい。」との評価で、4施策で次年度以降の更なる推進に向けた付帯評価意見がありました。

○付帯意見

- ①幼児教育の充実：新施設建替えにあたっては計画的に実施してください。
- ②学力向上・健全教育の推進：全道的に学力が低いと言われているので、家庭学習も含めて学力向上に努めてください。
- ③学校給食センター：今後も調理員の待遇改善、人員確保に向けて、引き続き取り組んでいただきたい。
- ④生涯学習環境の充実：施設の維持管理は、これまでも言われてきているが、財源の確保については、広い視点を持ち町全体として考えていただきたい。

【主な質疑】

委員：スクールカウンセラー・ソーシャルワーカーが各1名ずつ配置となっていますが、子ども達の考え方の多様化、保護者の安心感につなげるには、1名では足りないのではないかと思います。成り手がいないような話もありますが、令和6年度の対応について伺います。

担当：現時点では、それぞれ1名の配置を予定しています。担い手がいないこともあり、単純に予算だけの問題でもありません。人員不足については教育指導監や指導室で連携した取り組みを行っています。

委員：学校等の設置状況でへき地級がありますが、市街地の学校については、これまで同じ級だったのが、1級地と準級地になっています。なぜ、このような状況になっているのか説明願います。

担当：病院の数や位置、郵便局、バス停の数やバス路線の見直し等があると、その影響で変更になることがあります。

(2) 全国学力・学習状況調査にかかる中学校英語科の成績について

【主な質疑】

委員：全国学力テストの結果、根室管内における英語の点数が全国平均より 10 点以上低いという部分について町の状況、さらにその要因と今後の対応等についての説明をお願いします。

担当：ご指摘のとおり、中標津町の平均正答率は全国平均より 10 ポイント以上低くなっています。今回の英語科の調査は 4 年ぶり 2 回目となります。前回も全国平均より 10 ポイント低い状況で今年度が急に悪化しているわけではありません。改善できていないのは事実ですが、前回と比較して正答数の少ない層の割合が約半数に減少していることは大きな成果と考えています。また、学年差による結果も大きく左右していると思われます。分析ツールの結果からは、英語の勉強は好き・英語の授業の内容は良くわかると答えている生徒の割合が全国平均より高い傾向にあります。今後は授業の工夫等について、学校現場に指導助言を行っていきます。

(3) 部活動の地域移行について

【主な質疑】

委員：教職員の働き方改革の関係から部活動の地域移行について検討が始まり、来年度で 2 年目を迎えますが、今後、教育委員会としてどのような働きかけをしていますか？

担当：当初は教職員の働き方改革から部活動の地域移行が検討されましたが、現在は、いろいろなスポーツを子ども達に楽しみ、体験してもらうことも必要との考え方に変わってきています。今後は、協議会を設置して、教職員・保護者等の意向調査、アドバイザー等の講演会を行うことも検討していきます。